



和歌七部之抄

秀歌大抄 下

特別
イ 4
3163
88(3)



三
世貞
14
3163
88(3)

秀歌之體大略下

源信明朝臣

公忠子



天^六の^六かり^六明^六の^六月^六れ^六月^六乳^六と^六紅^六葉^六の^六枝^六を^六心^六を^六成^六れ^六也
 け^六奇^六の^六新^六を^六今^六れ^六を^六乃^六部^六の^六落^六葉^六乃^六奇^六之^六有^六
 明^六れ^六月^六を^六月^六乳^六の^六字^六を^六綱^六と^六す^六一^六奇^六を^六明^六之^六
 是^六釋^六滅^六の^六余^六情^六を^六法^六義^六の^六物^六と^六す^六三^六十^六四^六字^六
 待^六也^六一^六字^六と^六あ^六ま^六り^六を^六成^六す^六は^六ゆ^六り^六也^六
 也^六や^六仍^六光^六の^六流^六を^六家^六集^六は^六日^六乃^六法^六屏^六風^六此^六歌^六
 中^六あり^六け^六奇^六の^六初^六を^六此^六字^六之^六有^六明^六の^六月^六の^六終^六の^六
 う^六ら^六也^六と^六抱^六ひ^六あ^六る^六と^六中^六法^六より^六り^六冬^六也^六一^六

又其まてとまて大層しあもみりきり所方
あゝぬ秋志書ゆとりて也

後鳥羽河清歌家

あゝぬ秋志書ゆとりて也
時雨を望みもあつて抱乃色とわらふ事と
と扱はるゝかりと約ると此の丹を河々
そひお移しく何とる河らんとうこひ結つて
くせも秀がよ時分れゆらり神扱と河
そんきれそは成へー百葉中はあゝそひ結
とうまらお移しくいふ様思く

西行法師

林藤やせし里や河身ん甘約れあひまをれは流
せ約志撮くあこれ道流とまて秋
のやと山の里やまてあんと流く枝在る
山蔵大和河内平國の隈くゆりやと
あゝ秋藤れや山いそ海乃幕也。十市丹は
夕立涼く久留れてる喜久山をわかれ作と
流くとわらふ也

後鳥羽河清歌家

あゝぬ秋志書ゆとりて也

秋の明は約り也大概正風神は秋も少く侍
とほりて夜に始りて夜更なる移成(一)

西行等も也。小倉山麓に里あり。西行も

とて指す所あり。月夜にやけりて是は秋に

も也。三條橋名院入道も仍元法師也。夜

白ゆかきも秋なり。月夜氣み。きりり

も。三つ月は風物も。も。赤雲賦云

東波 霜露已下。來葉尽。落人影。在池作

見明月

君ははれしうに移りし秋氣の深きものなるを思ふと

秋の氣は深きものなるを思ふと

一夜も夜の秋の物りもと藤下人。此秋に

秋少くも秋多し。や秋多し。や秋少くも秋多し。

秋と秋と。秋と秋と。秋と秋と。秋と秋と。

秋と秋と。秋と秋と。秋と秋と。秋と秋と。

秋と秋と。秋と秋と。秋と秋と。秋と秋と。

秋と秋と。秋と秋と。秋と秋と。秋と秋と。

秋と秋と。秋と秋と。秋と秋と。

後京極殿に於て

秋の氣は深きものなるを思ふと
秋の氣は深きものなるを思ふと
秋の氣は深きものなるを思ふと

朝の光を待つては 毎日の毎日を
春の光を待つては 毎日の毎日を
春の光を待つては 毎日の毎日を
春の光を待つては 毎日の毎日を
春の光を待つては 毎日の毎日を

春の光を待つては 毎日の毎日を
春の光を待つては 毎日の毎日を
春の光を待つては 毎日の毎日を
春の光を待つては 毎日の毎日を
春の光を待つては 毎日の毎日を

改上是則

朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を

朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を
朝の光を待つては 毎日の毎日を

後宮秘抄の如き及び其

石上^{いの上}の如く少降霜となく一夜^いの如く^い秋の年^い
石上^{いの上}の如く抗^{かう}刺^し之^の如く又^{また}霜^{しも}人多^{おほく}也^{なり}
其^{その}如^{ごと}く^く霜^{しも}と日^ひ影^{かげ}もほ^ほる^るて今年^{ことし}
今^{いま}も一夜^いの如^{ごと}く^く如^{ごと}く^く也^{なり}一^{ひと}仍^{なほ}是^{この}如^{ごと}く^く
少^すとい^いらん^ん也^{なり}い^いそ^それ^れか^かく^く也^{なり}と^とき^きり^り也^{なり}
の道^{みち}は^はす^すら^らひ^ひや^やう^うと^と定^{さだ}家^かの^の如^{ごと}く^く
海^{うみ}と^と深^{ふか}夜^よれ^れ申^ます^す年^{とし}の^の如^{ごと}く^く一^{ひと}失^なら^らず
一夜^いれ^れ取^とり^りと^と流^{なが}る^るく^くみ^みの^の一^{ひと}流^{なが}る^る上^{の上}
ゆ^ゆと^と流^{なが}る^るく^くも^もた^たん^ん名^な前^{まへ}勿^な得^えく^く亦^{また}後^{あと}上^{の上}如^{ごと}く^く

後^{のち}の^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^く
流^{なが}る^るく^くの^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^く
流^{なが}る^るく^くの^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^く
却^{かえ}て^て〇^〇の^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^く
一^{ひと}同^{どう}一^{ひと}連^{れん}歌^かも^もに^に対^{たい}面^{めん}分^{ぶん}別^{べつ}長^{なが}人^{ひと}の^の如^{ごと}く^く
い^いそ^その^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^くと^と去^これ^れる^るく^く遍^{へん}昭^{しょう}は^は五^ご本^{ほん}
少^すく^く抄^{せう}録^{ろく}と^とも^もの^の如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^く〇^〇石^{いし}乃^の今^{いま}
年^{とし}の^の如^{ごと}く^くと^とれ^れは^は伊^い賀^がの^の如^{ごと}く^く一^{ひと}昔^{むかし}乃^の衣^いと^と我^{われ}
〇^〇如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^く〇^〇世^よを^をさ^さげ^げる^る昔^{むかし}の^の
衣^いを^をさ^さげ^げる^る一^{ひと}昔^{むかし}乃^の衣^いと^と我^{われ}
〇^〇如^{ごと}く^くの^の如^{ごと}く^く

秀徳大博士

新編の神代

有り孝の多かり赤いりて天照太神ノ末代あまのつひ

と海より世経来りてなるよし作りとて終る

歌

信正遍照た紙言ませは八男路名

早末代家のより世の中なるよしとて之をなせりてあり

世の中のをらう成り服来りて有り物人言諸君

新代歌ありては先代所集家集に世にたると

さ世のひとてしつてありてありてありとてあり

よありてありてありてありてありてありてあり

と世のひとてしつてありてありてありてあり

新代

早思人の花衣はあぬあり若乃彼よあらざるはせよ

事去りて後草花の門の法師能人かあかす

とてあるればしつてありてありてありてあり

けとてありてありてありてありてありてあり

乃山よのやうてありてありてありてありてあり

又の年一皆人の眼がうてありてありてありてあり

終りてありてありてありてありてありてあり

と有りてありてありてありてありてありてあり

みそりり後氏物部母とありてありてありてあり

新編の神代

は物倍母はふ〜〜わりて三年〜〜と

以り〜〜歎れん〜〜此れ今果れ事事集て

結中〜〜ゆり昔の彼と〜〜是深れ神〜〜也

〜〜り〜〜と〜〜に〜〜て〜〜ゆり〜〜滅〜〜

ゆり物あり 孝宗誠三年 不言

和泉式部 門院女房

諸十をふ若以下母は極〜〜て埋まぬ名と〜〜ある

夏去よお水侍り侍り〜〜と〜〜後上院年

〜〜まら〜〜けぬ衣と〜〜と〜〜ゆり〜〜けり

〜〜部〜〜と書紙〜〜進歩を〜〜と〜〜候〜〜と

〜〜の〜〜女は事〜〜され〜〜は〜〜と〜〜哀れゆり

〜〜と〜〜ゆり〜〜仍え〜〜院悪名と〜〜故代子〜〜と

〜〜とのあ〜〜孔子春秋と〜〜志ぬ〜〜ゆり〜〜可〜〜也

教宗道信朝臣 恒産云口男 乃之 詳

加〜〜り〜〜ゆり〜〜と〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり

〜〜人〜〜別〜〜く〜〜服衣〜〜と〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり

日教〜〜と〜〜ゆり〜〜進〜〜入〜〜事〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり

ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり

〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり〜〜ゆり

九

形見は春衣河の舟も 船を以て風吹け方の船乃
衣の襟履河舟の有衣の袖と襟のひらひらさ
たぬく一帯とたぬの秀絶の歌は是れと
河の舟れさゆとさ

後鳥羽院治政

わのひもわらわくはまれ夕燈ひとも娘とさよよ
長傷れは舟の常懐とひさしして無人の歌
よ思ふ念もさくありひおあおらさくさく
ひきよと娘とさよとさこれ河舟の舟人
舟はよ舟人の舟とさひおあひさくありさ

舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人

葉れはさよひと娘のさよよ舟人
乃舟の製くさく又旅去は舟の舟人
別はさよくさく舟の舟人
○思ふ折さく葉とさよさよ舟人
夕けつら舟人○思ふ舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人
舟人

四部表

夫人は形見の重也阿多^{あたら}ん夕れぬ一色をみし終と
 け歌八^{やち}の中一^{いち}常^{じょう}と云^い部^ぶく^くと云^い之^の夕れ雨
 一色の思し終と云^い魂^{たま}れ雲^{くも}と作^し事^{こと}あま
 と無人^{ひとり}れ是^{こゝ}に亡^なく^るを^しう^り特^{とく}多^た侍^しら
 死^し是^{こゝ}色^{いろ}と^はは^みし終と^く衰^{おろ}と^りひ^ひと
 けし^たゆ^りと^ん成^ちぬ^れと^も又^{また}亡^なく^ると^しあ^まり
 阿多^{あたら}ん^もと^も大方^{たいほう}同^{どう}く^もと^も一^{いち}流^{りゅう}云^い終^{しゆう}と^も今^{いま}
 妻^{さい}別^{べつ}れ^は夫^{おつと}之^の無人^{ひとり}の^うく^もに^もれ^るを^もと^も神^{かみ}れ^ぬ
 ら^せた^らせ^られ^りと^も人^{ひと}と^もあ^まり^もと^も又^{また}是^{こゝ}人^{ひと}を^しあ^まり^も
 一^{いち}子^こ所^{ところ}新^{あらた}行^ゆ瀬^せも^もか^かき^きぬ^ぬぬ^ぬれ^れぬ^ぬ好^{この}
 方^{あた}々^々今^{いま}今^{いま}く^く河^かと^もく^く河^か邊^へあ^ある^るも^もや^や夕^{ゆふ}れ^れぬ^ぬ色^{いろ}
 一^{いち}か^かし^し終^{しゆう}と^もあ^あり^り急^{いそ}の^のう^うり^り夕^{ゆふ}調^{てう}や^やま^まれ^れゆ
 ろ^ろ人^{ひと}あ^あり^り阿^あ多^{あたら}ん^もと^も志^{こころ}知^し海^{うみ}人^{ひと}あ^あり^り時^{とき}
 有人^{ひと}と^も可^よ南^{なん}之^の形^{かたち}人^{ひと}れ^れを^もと^もあ^あり^りと^も
 一^{いち}く^くと^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^もあ^あり^り
 今^{いま}海^{うみ}れ^れと^もよ^よ阿^あ多^{あたら}ん^もと^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^も
 と^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^もあ^あり^り
 阿^あ多^{あたら}ん^もと^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^もあ^あり^り
 阿^あ多^{あたら}ん^もと^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^もあ^あり^りと^もあ^あり^り

中^{ちゆう}綱^{きやう}言^{ごん}行^{ぎやう}平^{へい}

阿^あ多^{あたら}ん^もと^も

秀^{ひう}段^{だん}天^{てん}下^か

天
三利三利りる人の此等事やせしむるに
かの廊廊同備守同備守たる一し一記一記しきそそ記記之
一し一記一記しきそそ記記之
しと又其國の人よはむらむらと
作らむしむるも何りなるにの事一遠國と
六年（延圓）の二年しに改改山乃事一濃河
れする人山とあむしりて後りとそそ記記之
るしむとけ能と何りなるに一記記之濃河
同河 文とそそ記記之後とそそ記記之
るしとそそ記記之同河とけ能と後成とそそ記記之

おなまりとそそ記記之
らんといひなり一そそ記記之
明しなり人あむらむらとそそ記記之
つよとそそ記記之
しとそそ記記之
おの國司のしとそそ記記之
其徳圓れ作あむらむらとそそ記記之
おの國司のしとそそ記記之
遠立れしつ乃和とそそ記記之
乃臺遠立れしつ乃和とそそ記記之

けしと初去より

中納言行平

東今十八
目くくくくくくく
目くくくくくくく

くやえとむあー夏に物あゝゝぬ人あゝ

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

田舎のあつた
はくくくくくくく
のむくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

菅家

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

神代書に寛平沙門の寺子孫ともいふは
 信也の孫の寺子孫といふは後世に
 わり共ふともいふは寺子孫といふは
 寺子孫といふは寺子孫といふは
 と云ふは寺子孫といふは寺子孫といふは
 と云ふは寺子孫といふは寺子孫といふは
 寺子孫といふは寺子孫といふは
 と云ふは寺子孫といふは寺子孫といふは
 寺子孫といふは寺子孫といふは
 と云ふは寺子孫といふは寺子孫といふは
 寺子孫といふは寺子孫といふは

後醍醐

那波人若矢も寺子孫といふは寺子孫といふは
 寺子孫といふは寺子孫といふは
 と云ふは寺子孫といふは寺子孫といふは
 寺子孫といふは寺子孫といふは
 と云ふは寺子孫といふは寺子孫といふは
 寺子孫といふは寺子孫といふは
 と云ふは寺子孫といふは寺子孫といふは
 寺子孫といふは寺子孫といふは
 と云ふは寺子孫といふは寺子孫といふは
 寺子孫といふは寺子孫といふは
 と云ふは寺子孫といふは寺子孫といふは
 寺子孫といふは寺子孫といふは

己仍元所統據家かよりくく乃よりるま
 あり詩云 國こくに遠とほ新あらた況あはれ達いた信ぞ詔す亦また得え信ぞ

半日閑

第五十

幸ゆりしと事あくる人幸治やと〜河邊道々旅路も
 け勢も定家も有一言解ととるそれありか
 乃至平奥州かつしより海うみ急いそは時ときれり流ながる
 より〜等ら屋やよりあ海うみま〜あ道みちは彼こゝ
 河〜をれあちあり亦またと事あくる人幸
 あり幸りり奥州かつしより〜七八十日より
 小野このの家とをを〜と事あると道々より〜

小野〜てあ〜仍元所統是ち日と
 河〜をれあちあり亦またと事あくる人幸
 あり〜忠たか懐かと信〜又幸〜と事あ
 己今統云け素元しづもとと事あ〜と事あ
 己〜も〜事あ〜と事あ〜と事あ〜と事あ

家隆りゅう 中納言家隆なかつなごんりゅう

第五十一
 明あきら之の越こ〜さらの字あざられり行ゆき其その来きた乃なるりて
 装ま着ぎれあり〜ぬあ〜〜事あ〜と事あ
 半はん天てんか〜行ゆき〜と事あ〜と事あ〜と事あ

巻六下

八

たふゆはよしとなく河をいふは路の事
よく有けるは澄り所末を流けささ歌
多流乞と霧より行にきひに明月後之
曉色不盡とつげ乞母く有る言の仍見
山花○志のよ行の雲井よく澄りよや
くふ又つくは来度とくありさか
るら母を

後頼朝長

^{本上} 耶波江藤よる山ありけ玉拍河守て奈人志也
むしりとも石乃事く藤よるの流け玉拍

耶波江藤
玉拍河守

乃く玉拍河守て奈人志也
毎に録入録之作く思ふらるの録也

又音節河よる声くつと清りと石れ事と
多玉去玉樹なるのく拍れ事とつり
是又勿濁く也懸念かよ○庭よりく玉拍
影の玉拍と何く一照よ○草中玉拍中よ
秋く玉拍と何く事と行助○夕月秋
竹の玉拍と何く初くと何く事とつり

舞分の玉相とあるは遊遊のんがめりて思
那波のよおきと後座よりよりてな
あなと我と初見所統打女青銅板
あな。

後京極後院前之御女

め古上

とれと雲のれ雲の初時雨の赤い色から

夏書の上
世意のて

初時雨よ赤い色から

とれと雲のれ雲の初時雨の赤い色から

とれと雲のれ雲の初時雨の赤い色から

雲のれ雲の初時雨の赤い色から

象議等 中綱言希書

東宮の御座りては

け歌を若し思ひては

思ひては思ひては

東宮の御座りては

思ひては思ひては

思ひては思ひては

思ひては思ひては

藤原

今を侍りて人今下野より
とて東路乃依此舟橋より
一とされぬ妹は海ありと
ひくくさきだちよけくさ
はくろや海やうけり橋や
あつと侍りてとわかれぬ

藤原

藤原母書と侍りてあつと
六例乃是と席致し世道と
れを切れる志は侍りて
やせしめる歌と彼をひ
侍りてあつと侍りてあつと

侍りてあつと侍りてあつと

定家卿歌よ○お侍りてあつと

とくあつと草葉よ河の海

さつりてあつと侍りてあつと

原又あつと志の原く是と

さつりてあつと侍りてあつと

積人不知 後如

長工

伊りあつと家此の海よ宿よ
家此の海よ宿よ家此の海
の志は侍りてあつと侍りてあつと

水より立るとして思ふ程を海ありの海
よ寄も亦思ふのりなりと程よゆ人と
海人亦流云物又文字もくいつか
れ白くいつくしん之程身と白くは
いつかんとも貴人一才一白か
とい貴人といふときけ又文字の何と
程ひうつひてし物な海もく
候と一校候と云ふくといふ
てとちうといふ物な海もく
あしといふ物な海もくといふ

け又文字の程ひ候くと云ふ物なりといふ
不可得といふ
夕言い云れんといふ物なりといふ
程のりといふ物なりといふ
と云く候といふ物なりといふ
赤珠のりといふ物なりといふ
と云く候といふ物なりといふ
海と云ふ人といふ物なりといふ
一程程といふ物なりといふ

て中ひれ屋のういまらんまき

蝶孔々々之千海鳥之教

○此ら此色のういまらんまき風をまき

此命あけし思ふにれんまきまき物

能くわん言わし源順能く岸よあしよ

まはらまきよ百物あうまきまき

伊勢 伊勢守が系統法女七修庵

歌
歌は伊勢のういまらんまき

けうあかたあま屋まきまきまきまき

文字よ君臣れま文字あり是まき君臣れま

まきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまき

れきやうりつし

後醍醐天皇の御歌

後醍醐天皇 御歌

けりける人と初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 け歌ハ初 不道意とくし歌と強り初瀬
 意といの家夏ハ初瀬物法よみきり初瀬
 ち原し初て月をまき一葉よ初瀬のら
 うめりける人と初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と

けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と

常陸院御歌
高麗院御歌
子七十五

けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と
 けり初瀬の山を風よそまき一葉よふいのら物と

後醍醐天皇

公の水をきき通してとるをくわし抱されん
 けしき人れ別く後河ひくくは水はあへ
 後くくはありんと地りくくあふくくあり
 とくひくくして身とせめくく流り勢くゆん
 中を地りくく作ぬくちまけん河りまへ
 て余情とくくありくくわきそくく作物結
 かせくくありくくまきくく後撰云
 ○三月志あふりまきくくぬきくく
 せあつきのくくけきくくありくく
 ことくくありくく

作解

作解

思河絶られ河本流乃くくありくく河を

思河絶られ河本流乃くくありくく河を
 思河絶られ河本流乃くくありくく河を
 思河絶られ河本流乃くくありくく河を

思河絶られ河本流乃くくありくく河を
 思河絶られ河本流乃くくありくく河を
 思河絶られ河本流乃くくありくく河を

河せりや秋くく又水の漢くくありくく

くあり考えけくくありくくありくく

既えけくくありくくありくくありくく

進まふもて流しりまきくくありくく

くありけりくくありくくありくくありくく

末物くくありくくありくくありくくありくく

人磨

喜ぶのこころは...
喜ぶ心は...
喜ぶ心は...
喜ぶ心は...
喜ぶ心は...
喜ぶ心は...
喜ぶ心は...
喜ぶ心は...
喜ぶ心は...
喜ぶ心は...

世の中は...
世の中は...
世の中は...
世の中は...
世の中は...

讀人不知

かゝる...
かゝる...
かゝる...
かゝる...
かゝる...
かゝる...
かゝる...
かゝる...
かゝる...
かゝる...

三十一

三十一

とくつらんを叱りけり仍え所統云ふもこの統の
頼心も遠くもあつた此道もいふやうな
くしとて守りてとて守るもさうな
つて

後頼朝長

全書七
思ふに家来は法よの家来なるものなり
後頼朝の家来
てんてん首
とて守るもさうな
てまふ乃家へもさうして教物るれし
〜
引くは引くまぬを成へ〜
お統云ふ事なれ

日人さうせとて定家卿の御殿に色
なすつらとて又消とていふ〜
あ〜日人さうとていふ〜
とて通具は統もは家来とてさうして
此後なる〜

後成卿

思ふに頼朝の〜
つて守るもさうな
教く〜とて守りてとて守るもさうな
とて守るもさうな

百夜^{ひやく}とくす海^{うみ}ねり人^{ひと}とらる^{らる}まをく又^{また}今^{いま}
集^{あつ}れ才^{さい}十五^{じゅうご}枚^{まい}の^の曉^{あかつき}時^{とき}の^の明^{あき}くさ^さ百^{ひやく}羽^うさ
君^{きみ}と友^{とも}我^{われ}を執^とりて^とゆる^{ゆる}は^は是^{こゝ}の^の時^{とき}の^のあ^あ
くひ^ひに^により^{より}二^に龍^{りゆう}の^の奇^きに^にた^たれ^れ歌^{うた}ハ^ハ揚^{よう}志^し
く^くく^くさ^され^れた^たは^はく^くく^く海^{うみ}ゆ^ゆく^くと^とち^ちの^のく^く
書^{かき}の^の更^{さら}人^{ひと}は^は志^しを^を海^{うみ}ま^まに^にれ^れん^ん海^{うみ}を^をれ^れて^て海^{うみ}を^をれ^れて^て
以^も統^{とう}九^く十^{じゅう}九^く和^わち^ちよ^よ親^{おや}と^とさ^され^れて^てえ^え移^{うつ}る^るさ^さり^りと^と
可^か海^{うみ}く^くと^とく

壬午忠考

百^{ひやく}十^{じゅう}三^{さん} 百^{ひやく}羽^うの^の海^{うみ}を^をれ^れく^くみ^みに^に別^{わか}ら^らず^ず懐^{なつ}く^くさ^さり^りと^とさ^さ物^{もの}り^りあ^あく

先^{まづ}有^あ明^{めい}と^とつ^つと^と別^{わか}ら^らず^ずと^とい^いひ^ひに^にま^まに^に海^{うみ}を^をれ^れく^く
の^の明^{めい}く^くの^の海^{うみ}を^をれ^れく^くと^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふ
れ^れは^はと^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふ
この^{この}海^{うみ}あり^り一^{いち}枚^{まい}の^の海^{うみ}を^をれ^れく^くと^とい^いふ^ふ
凡^{たゞ}く^く一^{いち}別^{わか}ら^らず^ずと^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふ
や^やと^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふ
弟^{あに}あ^あら^らび^び歌^{うた}を^をて^て海^{うみ}を^をれ^れく^くと^とい^いふ^ふ
海^{うみ}を^をれ^れく^くと^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふ
海^{うみ}を^をれ^れく^くと^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふ
人^{ひと}の^の事^{こと}あり^りと^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふと^と又^{また}と^とい^いふ^ふ

百^{ひやく}十^{じゅう}三^{さん}

海と色くはみうとま

讀人不知

冬

名取河瀬に此理ありて思ふ人ありて思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人

冬

今とて思ひて思ふ人ありて思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人
思ふ乃乞ふく席歌の上句の詞を思ふ人

素性法師 遍照千玄利信

是と相あり一上弦乃月を下弦の月一
く海まきく座まきく事人とひくまはる

一

元良親王 湯成院

後撰十

遠夏い遠山まうれり衣まそいかにるは福の

多しきりやいほ 多しきりやいほ 多しきりやいほ 多しきりやいほ

多しきりやいほ 多しきりやいほ 多しきりやいほ 多しきりやいほ

所く又衣まきくと所まきつらま海

とらま海時とつらまきつらま海

移よあひらん時とつらまきつらま海

みまきれとらあつとつらまきつらま海

中よあ中ゆり不守崩る仍えゆ程大賞

會乃時と桐作ととらん一柳也野ゆ

た時ハ遠山あんととと海也島摺あ統

たうゆゆとと可ゆととと是と例と

序奇と

人ぬ 王女の御守と

是の心馬れ尾のまうをれあつとつらまきつらま海

い教とつらまきつらま海

うらま海つらまきつらま海

一 春とて海を渡りて行くことなりとて此の歌
もよほし河の流るるに舟をこめて月影を
照らす一とて海を渡りて行くことなりとて此の歌
て其味とて見ゆる人一とて此の歌
やゆらん人鷹乃奇いこととて此の歌
とて此の歌とて見ゆる人一とて此の歌
奇の儘とて今も其の奇なりとて此の歌
りりやや初葉の流るることとて此の歌
るるは鳥をかくるることとて此の歌
人唐の奇の奇なりとて此の歌

とて此の歌

元良親王 御成道御事

一 春とて海を渡りて行くことなりとて此の歌
もよほし河の流るるに舟をこめて月影を
照らす一とて海を渡りて行くことなりとて此の歌
て其味とて見ゆる人一とて此の歌
やゆらん人鷹乃奇いこととて此の歌
とて此の歌とて見ゆる人一とて此の歌
奇の儘とて今も其の奇なりとて此の歌
りりやや初葉の流るることとて此の歌
るるは鳥をかくるることとて此の歌
人唐の奇の奇なりとて此の歌

てとらりんとらよ中より思ふとほくしと離
 けれ縁やかの在りよまりしあがりしとほくし
 了水の清き海とともあはれまゝに世に世に
 け神の奇くそあらまゝにまゝにまゝに
 打ぬおしとらにわしとらにわしとらに
 りく吟味とらしとらにわしとらに
 らぬく可なりとらにわしとらに
 じ持しとらにわしとらに
 何うける

孝大信正意法
法は善き子
信は徳を物と

孝親大御
 孝親大御
 孝親大御
 孝親大御
 孝親大御

人をも何とて家の中をまわす
 りの中の時と秋の夕暮り
 しそみし侍りぬ是入道殿
 日云慈しき文字本刺し
 了くぬ意も時白の朝と
 りとらにわしとらにわしとらに
 りとらにわしとらにわしとらに
 りとらにわしとらにわしとらに
 りとらにわしとらにわしとらに
 りとらにわしとらにわしとらに

ふしむるありてはこほく極よき一秋
の静寂しき風花れうらみひく静か
かきくよ成る時分秋よくさし人よ心
屋みま字類は師の〇りせいとあはれと
着れ平所へなひうかきよまうひす
おろりき

後鳥羽院御歌

神代も何れぬ色まよえ師の家うらまひらり静か
静息をれもとありぬの境し静か
うらまひらり静か
人のなれまはらり静か

れおひいと何れぬ色まよえ師の家うらまひらり静か
静息をれもとありぬの境し静か
うらまひらり静か
人のなれまはらり静か
れおひいと何れぬ色まよえ師の家うらまひらり静か
静息をれもとありぬの境し静か
うらまひらり静か
人のなれまはらり静か
れおひいと何れぬ色まよえ師の家うらまひらり静か
静息をれもとありぬの境し静か
うらまひらり静か
人のなれまはらり静か

とらふにけを成へり。又。おのがまの月よ
てし。まのまのれは。おのの老とあ物や
る。よ。け。の。あ。り。○。おののまの物よ。あ。り。と
る。お。物。を。と。り。ま。つ。て。あ。ひ。歌。に。し。り。ん。の。持。り。あ
る。有。と。條。橋。を。院。入。道。を。の。え。り。統

